

荒廢

掛畏岐山陵乃兆域乃内爾佛堂平建天死屍乎埋世在止申事在仍今令所司委曲勘定若事有實者即破堂撥屍天淨掃比奉仕卒此狀乎參議正四位下行右大辨兼播磨權守大枝朝臣音人乎差使天聞奉出賜布掛畏岐山陵平聞食天天皇朝廷乎平安爾賜止恐美恐美申賜波久申

〔前王廟陵記上〕今按畝傍山、今奈良西南六里、久米寺北、俗云慈明寺山是也、東北陵可百年以來、壞爲糞田、民呼其田字神武田、暴汗之所爲可痛哭也、餘數畝爲一封、農夫登之、恬不爲怪、及觀之寒心、夫神武天皇繼神代草昧之蹤、東征平中州、闢四門、朝八方、王道之興、治教之美、實創於此、我國君臣億兆、當致尊信之廟陵也、澆季至於此、噫哀哉、

〔大和廻〕畝傍山、今井八木の南道の四五町西にあり、里人は持明寺山と云、略中神武の陵は、うねび山の艮に在、今はわづかに残れり、田の中に有、里人は神武田と云、

〔和州舊跡幽考〕佐紀山に陵三四基あり、それが中に、神功皇后の陵といふものあり、外はいづれの御代の陵にやありけむわからがたし、又云、今この神功皇后陵を見るに、年ふりにければにや、石棺土を出、埴輪草むらのがげにのこりたり、

〔山陵志〕安康陵略中又有呼爲西蓬萊山、今已犁爲田、惟其溝未埋處環殘陵若半月然蓋方其未毀與東陵屹乎相望也、

〔山陵志〕花山陵、在石影略中三條陵乃列其側焉、按二陵並皆壞難得其所、

〔撰集抄〕新院御墓白峯事

過にし仁安の比、西國はるぐ修行つかうまつり侍りし次に、讃州みを坂の林と云所にしばらく住侍き、深山べの楓の葉にていほりむすびて、つま木こりたく山中のけしき、花の木末によわる風、誰とへとてかよぶこ鳥、蓬の本の鶴、日終に哀ならすといふ事なし、長夜の曉、さびたる猿の聲を聞くに、そゝろに脇を斷侍り、かゝる栖家は後の世の爲としも侍らぬ其心そゝろに澄ておぼ